

平成24年度社会福祉法人

東京聖新会事業報告

1. はじめに

社会福祉法人東京聖新会は開設以来、地域のみなさまの健やかな生活の継続を願い「地域から信頼される東京聖新会」を目指し、社会福祉法人の存在意義を一步一步果たしてまいりました。平成24年度につきましても、介護保険改定の中での厳しい運営となりましたが、東京聖新会と致しまして、「地域のみなさまのご要望」に対し、出来得る限りお応え出来てきたのではないかと考えております。これも日頃からの地域のみなさまのご支援の賜物と深く感謝しております。ありがとうございました。

さて、平成24年度の当法人事業につきましても、「地域からより信頼される社会福祉法人」として各種の取組みを具体的に策定し、実践致してまいりました。下記の通り、社会福祉法人東京聖新会平成24年度の事業報告をさせていただきますので、ご熟読の上、ご理解をいただけますようお願い申し上げます。

2. 基本理念 運営方針

<法人基本理念>

「心づくしを皆様へ～」

東京聖新会は、誰もが健康で安心して生活できる長寿社会の実現を目指し、「快適」「安全」「安心」「信頼」をゲストの皆様と地域の皆様に提供できるよう心を尽くします。

さらに、ICF（国際生活機能分類 International Classification of Functioning, Disability and Health）の視点から、提供するサービスの内容を考え続けます。

フローラ、ハートフル、ふたつは一体として・・・

フローラ田無は「住み慣れた環境で自己実現や社会参加を果たしながら安心して住み続けていただける施設」とし、また「医療施設から在宅復帰へと繋ぐ架け橋」としてのハートフル田無はゲストおひとりおひとりのニーズに合わせた機能訓練を行い、全人的復権（人間性の回復 リ・ハビル）を進めます。両施設共にゲストの日々の生活の支援は、パーソン・センタード・ケア「その人らしさ」の再現、「自己実現」を基本とし、画一的なケアや、介護側の都合によらない「個別ケア」を基本として施設サービスを実施します。ゲストが自立した生活を営むことができ、速やかに在宅復帰や社会参加できる環境を整えて参ります。そして、地域に住まう皆様からの地域資源のひとつとしての使命を担い、重ねて地域から信頼される法人となることを目指します。

<法人の目標>

法人基本方針に則り、下記に法人目標を掲げます。

個人の尊厳を守り、法人を取り巻く地域との連携を図り、パーソンセンタード・ケア「その人中心の」「その人らしい生活の実現」をできることを目指します。法人としてICFの視点から、可能な限り「できること」を「できる範囲」で計画し、ゲストだけではなく、地域からの満足度を高められるよう実践します。また、ゲストのニーズを的確にキャッチし、常に「何が必要とされているか？何が大切なのか？」を考え、社会情勢等にも柔軟に対処できる力強い運営を継続して参ります。

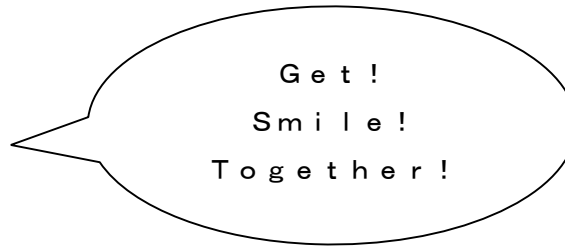
「心づくしをみなさまに」

- 一、「はい」という「素直な心」
- 二、「すみません」という「反省の心」
- 三、「私がします」という「奉仕の心」
- 四、「おかげさま」という「謙虚な心」
- 五、「ありがとう」という「感謝の心」
- 六、サービスをご利用になる利用者さまは「ゲスト」として「もてなし」の心をつくします。

「ゲ」 GET

「ス」 SMILE

「ト」 TOGETHER



ICFの視点とは・・・

1. 何らかの意欲を持っていろいろな生活機能を使い、環境と相互作用しながら生活し人生を送っていることを大切にすること。
2. 何らかの生活機能の低下（障害）にあっても、自分なりに乗り越えて意欲を達成しようと人間はさまざまな生活機能を使っていることを尊重すること。
3. 人間の障害を克服するために、医学モデル・社会モデルを結合して障害をとらえ、ケアを検討・実施し、本人自らが意欲の達成を目指すことを支援すること。

上記を基本目標として、下記の中長期目標をおきました。

<長期目標>

ゲストが安心、安全に日常生活を送り、機能が向上することで自立できるよう支援します。

- ① ゲストの健康情報の管理システムを構築し、効果的な地域との連携を促進します。
- ② ゲストの機能向上を図り、在宅への復帰を促進いたします。
- ③ サービスの向上、さらなる個別ケアの充実を進めます。
- ④ 地域のニーズを反映した適切な入退所支援を行います。
- ⑤ 災害時に強く、社会情勢に対応できる施設運営を行います。
- ⑥ 東京聖新会はひとつの組織として一体です。
- ⑦ ハード面等設備などメンテナンスの実施を行います。

<長期目標を実現するための中期目標の結果>

①について・・・ゲストの健康情報の管理システムを構築と連携

・システム管理委員会によりゲストの介護医療情報システムの構築を目指し、東京聖新会全体と

して情報の標準化を進め、地域連携を深めました。

・昨年度に続き、向台地域包括支援センター、居宅支援事業所と連携と拡充を図ったことでゲストだけでなく地域住民へも必要な支援が行えました。（居宅支援事業所での取り扱い件数が増加）

- 1) 「システム管理委員会」を活性化させ、日常業務（看護、介護、リハビリ）情報のIT化をさらに進めています。外来の医療情報・介護福祉情報を併せた個人情報全体の取り扱い方法の部門間での共有化を図っています。
- 2) 個人の意志に基づき、地域の病・医院、歯科医院などと情報交換可能となるシステム、「仕組み」作りの一環となるように地域に働きかけた結果、市内各老人保健施設、病院等と情報連絡会が設立されました。

②について・・・ゲストの機能向上を図り在宅への復帰

転倒などの事故予防を進め、リハビリテーションのあり方の再検討を行い、生活リハビリを含めたリハビリテーションについての意識を高め、地域包括支援センターと共に地域へのアプローチを行いました。

- 1) 個別リハビリ及び短期集中リハビリサービスはもとより、介護保険以外でのサービスとしてのリハビリを実施しました。
- 2) 個別ベッドサイドリハビリと生活リハビリとして自然な形でのリハビリを行いました。
- 3) リハビリ部門という特性を活かした専門研修（LAC研修）やレクリエーションを実施しました。
- 4) 市民介護研修において地域の方々にリハビリの重要性をお伝えすることが出来ました。
- 5) 研修システムを導入したことを学会等で発表いたしました。

③について・・・サービスの向上、さらなる個別ケアの充実

その人らしい生活の再現、ICFの理念に基づいたケアを行い、社会参加を促しました。

- 1) 東京聖新会全体として、老健施設長が中心となり感染症・事故対策・給食衛生各予防を始めとする各委員会活動の機能性を高めました。
- 2) 研修計画に則り、各研修を行いスタッフの法人全体で専門性を高める研修を実施しました。（地域包括支援センターでは武蔵野大学から講師を招き研修を実施）
- 3) 顧客満足度と職員満足度の向上を図る各種アンケートを継続実施し、環境改善委員会へ提言、改善へとつなげました。
- 4) 個別ケアの充実を進めるために業務の見直しや時間、場所、スタッフ配置などの有効活用を進めました。

④について・・・地域ニーズを反映した適切な入退所支援の実施

市内各施設と連絡会を構築したことで、的確な入退所相談を行い、緊急時に連絡を取ることできるシステムの整備を図りました。緊急入所なども含め、緊急受け入れ時の情報不足に対する対応策として市内施設統一書式を提案しています。継続中となっています。

- 1) 地域ニーズに応えるために、アンケートを継続実施し、改善を進めております。

- 2) 向台地域包括支援センター、フローラ居宅支援事業所と綿密な連携を図り、フローラ、ハートフルの入退所を促進し、迅速な入所、退所した後のフォローも確実にいき、地域のニーズに応じております。
- 3) 待機者ゼロを目指しております。
- 4) フローラ田無、ハートフル田無と共に第三者委員会の設置を準備しております。

⑤について・・・災害時に強く、社会情勢に即応できる施設運営

委員会などの組織の再編に伴うキャリア・パスの見直し、スタッフへの定期的な面接を行い適正な人事考課を実施しました。3S（スマイル・セーフティー・スリム）と3K（綺麗・快感・心地良い）をスローガンとして各委員会で検討し、コストカットではなくコストダウンを進めていますが、災害等での修理改善を余儀なくされたこともありました。

- 1) 新会計システムを導入しました。
- 2) デイケア定員の増員（30名を40名）を行いました。
- 3) 居宅支援事業所の拡充（職員配置を増員2名から3名）しました。
- 4) キャリアパスによる適切な人員配置と人材の確保と育成を継続しています。
- 5) 地域自治体との防災協定を締結しました。
- 6) 補助金等の申請を実施しつつ、事務局主導にて環境改善委員会にてコストダウンを図っています。
- 7) 消耗品仕入れ等の一括購入を引き続き検討しております。

⑥について・・・東京聖新会はひとつの組織である。各事業所の連携の強化

社会情勢や介護制度改定を踏まえた上で、合築型施設の「強み」をさらに活かし社会福祉法人東京聖新会の安定した運営を進めています。法人がひとつとなって地域における社会福祉法人としての存在使命を果たしています。そうした法人全体として取り組むプロセスで「入所をお待たせしない」ということを念頭にベッド稼動が適切に管理運営されました。

- 1) 人事考課システムの見直し・就業規則等の統一化をすすめました。
- 2) 施設間人事交流をさらに進め、東京聖新会職員としての誇りとプライドの持てる法人とするための各種の取り組みを行いました。（市民介護研修、施設内研修、聖新会まつり、地域餅つき大会、地域音楽会、駅前ハンドベル、地域出前デイ、西東京市自衛消防訓練合同審査会にて3隊参加し特別賞を受賞、FM西東京番組出演5回、東日本大震災復興支援大指こどもドームハウス竣工）
- 3) 「チャレンジと」「フィードバック」システムによって個人研修制度を構築しました。

⑦について・・・設備の新規購入、保守点検

開設以来、ハード面の各部位が老朽化した部分は、機能及び美観を低下させないように改修を実施しました。

- 1) 補助金を申請し、空調設備等の高効率GHPエアコンへの更新に取り組みました。
- 2) 補助金を申請し、ハートフル新規浴槽を購入しました。

- 3) 施設内各所の整備、修繕、改善などを行い、漏水を発見し改善できました。
- 4) 不要な在庫、備品の整理廃棄を行っています。
- 5) ベッド等備品の交換と、屋上防水工事の検討を引き続き検討しております。

＜適正な運営を進める＞

今年度につきましても、東京聖新会の法人理念に基づきゲストのみなさまの意向に沿った「パーソン・センタード・ケア」を実践してまいりました。昨年度に引き続いての「法人はひとつである」「個別ケアの実践と人材教育」「個人の尊厳を保持した情報の共有を図る」「施設整備を進める」を取り組んだほか、特に地域における各種の情報の共有を図るプロジェクトについても、リーダーシップを確実に発揮しております。今後も危機管理の充実、身体拘束ゼロの実践、苦情対応の充実、高齢者虐待防止への取り組み、防災ネットワーク、第三者委員会の発足、介護保険改定に向けての対応など継続し、運営を行ってまいります。